

AJU

コンビニハウス

会報

編集/コンビニの会事務局
連絡先/〒452-0807 名古屋市西区歌里町 147 番地
TEL/FAX(052)505-6082(コンビニハウス)

障害をもつ人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人
コンビニの会

定価/150 円
昭和 54 年 8 月 1 日第三種郵便物承認

第170号



真っ赤に燃ゆる彼岸花

花だより 「彼岸花」

自然写真家 河嶋 秀直

「暑さ寒さも彼岸まで」という慣用句をご存じでしょうか

その秋彼岸の頃に咲く事から「彼岸花」の名前が付けられたようです。

原産は中国、日本には有史以前に持ち込まれ史前帰化植物と全国に広まった。

地下の鱗茎(球根)には、強い毒性を有し害獣予防のため田畑の畔に植えられることが多かった一方、救荒植物として毒抜きをして食料にした時代もあったようだ。

新美南吉作「ごんぎつね」の舞台になった矢勝川堤が近くにあり、三百万本とも言われる彼岸花が市民の手によって植えられている。

彼岸花の時期になると、早起きをして散歩がてら写真を撮るのが毎年のルーティンにもなっていて、朝陽が昇ってくると彼岸花が、より一層赤色を鮮やかにして輝く。

彼岸花の別名は、地方の方言も合わせると千を超えると言われているが、そのほとんどがネガティブな名前が付けられている。

(次ページへ)

別名の中で有名な「曼珠沙華」は梵語で「天界に咲く花」「赤い花」という意味で、珍しくポジティブな名前が付けられている。

赤色のイメージが強い彼岸花だが、白や黄色の物もあり、最近では品種改良されてオレンジやピンクの彼岸花も誕生している。

彼岸花の花言葉は、色によって違っていて、黄色は「深い思いやりの心」、そして赤は「情熱」や「また会う日を楽しみに」など心に寄り添う言葉が多い。

今、世界各地で起こっている紛争の当事者たちが、彼岸花の花言葉のように思いやりの心を持っていれば、停戦合意など容易く出来ると思うのだが。

花言葉は、いつの時も忘れていた大切なものを思い出させてくれる。



一輪の彼岸花

雑記 ごまめの歯ざしり

忘れられない夏

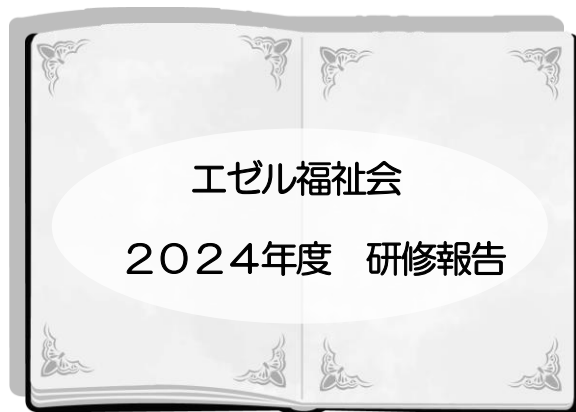
頻発する自然災害。この夏も猛暑で、雨が降れば豪雨となる。ちょうど十年前の夏、土石流による災害が南木曾で起きた。残念なことに中学生一人が犠牲になった。その災害が発生した二日後、私は地元の病院で手術を受けることになっていた。

病院に入院したのは、手術を受ける前日だった。その夜、同じ階のどこかの部屋から子どもの泣き声が聞こえ、なかなか眠れなかった。手術は無事に終わり順調に回復していったが、時折聞こえてくる男の子の声が気になった。もしかしたら、災害で亡くなった子どもさんの兄弟が入院されているのかなと思い、看護師さんに聞いてみた。だが、はつきり答えてもらえなかった。退院間近となり、泣き声も聞こえなくなった頃、廊下で小学生くらいの男の子とすれ違った。足を怪我して松葉づえで歩いていた。怪我の回復と同時に少しずつ現実を受け入れ、一生懸命に歩き始めているように見えた。いろいろな理由で入院する人たち。一人ひとりに物語があるのだ。

先日、久しぶりに知り合いの娘さんが訪ねて来てくれた。彼女はこの春から看護師として働いている。看護学生の頃は実習で思うように患者さんとコミュニケーションが取れないと泣いていたが、だんだん看護師らしい顔つきになってきた。そんな彼女にも物語がある。十年前に祖父を不慮の事故で亡くしている。彼女は小学六年生だった。

彼女も前述の男の子も、偶然にも当時は小学生。あれから十年、彼らの人生の物語にどんなことが書き加えられたのだろうか。一方、私の傷は消えてなくなりはないが、体の一部となった。

(支援者 上村 明美)



エゼル福祉会では全職員研修をはじめとして、職員に様々な機会を通して福祉を学ぶよう勧めています。大川理事長は事あるごとに教養のある職員に育ってほしいと言っています。今回は以下の研修の概要と参加した職員の感想などをまとめました。目の前の問題を解決するには俯瞰的にものを捉え行

動する力が求められます。これらの研修が職員の気づきや成長につながってくれることを望んでいます。

～ 第一部 ～

ホウネット記念講演を聞いて

コンビニハウス指定相談支援事業所

相談支援専門員 寺澤 慶英

先日、名古屋北法律事務所の友の会、暮らしと法律を結ぶ「ホウネット」第20回総会に参加しました。そこで記念講演としてNP
O法人抱撲（ほうぼく）の理事長、奥田知志氏のお話を拝聴しました。奥田氏はキリスト

教の牧師でもあり、北九州の地を拠点に活動されておられます。かなり離れた遠方の県からも依頼や相談があるとのこと、講演を聞くともうなずけるものでした。抱撲の多分野にわたる支援や、失われつつある家族の機能を社会的な仕組みに変えていくという考え、一人も取り残されない希望のまちを新しい拠点を中心につくっていくといった様々な活動はとても興味深く、もともと知りたかったと思いました。また牧師であられる奥田氏の人間的な魅力にも引き込まれ、覚悟や胆力のようなものを感じました。印象に残るのは、伴走型支援という視点の大切さ。一緒に悩み、一緒に考え、ずっとつながり続けていく。支援者として、問題解決ということ

に意識が行き過ぎていると解決できたかできないかという成果のようなことに囚われてしまいがち。トラブルや問題を未然に防ぐとすることで、本人の思いや行動を抑制してしまったり、ともすると行動をジャッジするようなかかわりになってしまったり。本人らしさや本人の失敗する権利を奪っているということなどに気づけないままですすんでいく。大切なのは、問題解決型の支援だけではなく、伴走型支援と両輪ですすめていくということ。

私も現在、障害福祉サービスの相談支援専門員として、様々な生きづらさを抱えた当事者の方々の相談支援にかかわらせていただいておりますが、問題解決型の支援に傾いて

いたことを痛感。しかもそれで何かできたような気持ちになって自己満足していたように思います。今回の講演は、相談員・支援者としての在り方を省みる大切な気づきの機会となりました。研修などで話を聞くことは自分の考えの幅を広げ、引き出しを増やすことにつながります。奥田氏は書籍やSNSなど多方面で発信してくださっているので、ぜひ「支援」に携わる方はふれてみていただけたらと思った次第です。



ホウネット 20 周年記念講演
「だれも孤立させない社会をめざして」
～助けてといえる地域づくり～

2024 年 6 月 15 日

講師 奥田 知志さん
 NPO 法人「抱樸」理事長

格差と貧困が広がる中で物価高騰、社会保障の切り下げが人々の生活をより困難なものにしています。奥田知志さんは「伴走型支援」を提唱し、人々がつながり続けることが大切であり、「支援」の枠組みを超え「ともに生きる日常」が創造されていくための営みが必要であると強調されています。

～ 第2部 ～

シリーズ「老障介護」(朝日放送テレビ)

制作者に聞く

朝日放送テレビディレクター 西村 美智子

7月13日にエゼル福祉会の研修室で障全協の全国障害児者の暮らしの場を考える会総会が開かれました。会報第167号で溝口さん(通所施設長)が2023年11月に厚生労働省との交渉に参加しグループホームの制度について訴えてきた記事を掲載しました。今回はその前日譚にあたるテレメンタリー2024「行き場のない障害者へ入所施設 定員削減の陰で」(朝日放送テレビ制

作)を視聴し、ディレクターの西村さんのお話を聞き制度を変えなければ解決できない課題があることを学びました。この番組は2024年5月度ギャラクシー賞月間賞を受賞しています。

【 授賞理由 】

「老障介護」という厳しい状況が更に深刻化した、障害者施設へのやむなくの入所対応。しかし「地域共生の促進」の美名からの強引無体な施設定員の削減で、福祉面での露骨な経済効率化を図り、障害者たちを困難へと追い込む行政の暴挙。この国の障害者施策が「無策」から積極的「棄民」へシフトしている残酷に愕然とする。

この作品を含め2017年に始まった40作品をこえる『シリーズ老障介護』はすでに2020年のギャラクシー賞を受賞しています。

エゼル福祉会は当初から障害者の自立した地域生活を目指してきました。社会体験の乏しい重度の方でも様々な経験を通して自立した暮らしにつなげることが得意ですが強度行動障害を持った方の生活への支援の経験が少なかった。広く動けるような空間があり、専門性の高い介助者に見守られて暮らし入所型の施設の維持が必要だと気づかされました。

この報道の後に初めて国が実態調査を進めるきっかけとなったことは大きな影響を

与えたことになります。

ユーチューブで「ABCテレビニュース 老障介護」と検索すれば関西に限定せず世界のどこにいても視聴ことができます。配信の再生回数はシリーズ全般で6400万回を超えているそうです。会報購読者の皆さんもどうぞご視聴ください。

<https://www.youtube.com/c/aboch6/video>

朝日放送テレビのディレクター 西村美智

子さんにお話を聞きました。



朝日放送テレビ 報道局
西村美智子さん

【最初の1本】日本の超高齢化を取材す

る中で、70代のお母様が、難病で身体障害のある40代の娘さんを介護しているご家庭に出会いました。介護をする側が、介護される側より30歳ぐらい年上であること、大変深刻な現実でした。この出会いが、「老障介護」を報道するきっかけとなりました。

【シリーズ化】タ方のニュース番組では、

明るい話題も多いのですが、「老障介護」のご家族の深刻な場面を、ありのまま伝えることに徹しました。視聴者の皆さんに、どのよう

【社会問題になる前に】障害のある方を

支えるご家族が、限界を超えた時、子どもを虐待するような事案が起きています。そんな悲しい事件が起きないよう、ご家族を救えるよう、報道の力で、世の中を支えていきたい、スタッフ一同、そのような思いで、報道を続けています。

【映像の力】カメラマンと共に現場を取

材し、編集マンと共にVTRにまとめます。この問題を知らない方々にも理解していただくようにと、工夫を重ねています。何度放送しても反省点がありますが、取材を受けてくださったの方々の温かさや励ましの声に救われています。

【社会の一員として】「老障介護」のご家

恵まれ、報道が続けられております。

族の問題は、まさに、地域の中で起きている問題です。どなたにとっても身近な問題だと思っ
ています。すぐそばに困っている人がいる、救いを求めている方々がいる、そんな思
いが伝わればと、報道を続けています。



内容は深刻ですが、お母さんたちの優しい
関西弁や難しい介護に取り組む職員の姿勢
にほつとする場面がありました。制度のすき
間に陥る強度行動障害の方々がこうして報
道されることで関心を集め、政策や制度が変
わっていくことに期待します。



第3部

エゼル福祉会 全職員研修

2024年7月20日

【午前の部】

「障害をもつ人の意思決定支援とは」

講師 清水 明彦 氏

西宮市社会福祉協議会 副理事長

(青葉園元園長)

【午後の部】

映画「普通に死ぬ」上映

● 午前の部 ●

通所部 W I L L 職員 遠藤 真衣子

清水先生が語られた「聞くことや選択肢を
提示するより関わっている『自分がどう感じ
ている』か、本人がどう思うかと同じくらい

『私はこう思う』を伝えることが大事」とい
う言葉が印象に残った。私は自分の思いを言
葉で伝えることが苦手だが利用者さんの伝
えられない気持ちを言葉で代弁することで
信頼関係が深くなっていることに気づいた。
答えや結果を伝えなくてはと焦ったが一緒
に揺らいでいる時間も利用者さんとの関係
を築くのに大切な時間だと思った。

W I L L が開所した時、私は職員となって
1年目でYさんが毎日ソファに寝ころび
布団をかぶって1日を過ごしていた日々を
思い出した。関わっている自分はとても無力
に感じ、ただ布団から話す声に対して答える
だけしかできなかった。少しずつ仕事や周囲
の人に興味を持ち、できることが広がり、1

人暮らしの生活に慣れ、今はWILLで体をゆらし音楽にノッて過ごしている。何もできない時間ただそばにいて相手の気持ちを感じることが本人の安心に変わり、意欲につながると思う。

西宮市の独自の本人中心支援計画が本当の意味で利用者さんの支援になることに気づかされた。「本人さんは言葉を発せられなくても自分のために集まっていることはわかる。必ず隅にいても見ている」と語る清水さんの力強い言葉に背中を押された気がした。研修を受けて利用者さんの物語を広げるために周りを巻き込んで一緒に支援を考えること物語の次なるページをめくっていくことを忘れずに日々の支援につなげたい。

● 午後の部 ●

生活支援部 職員 宇都宮 正亨

重心の方やその家族、周囲の関わりをわかりやすく描いておりとても印象深く見させてもらいました。周囲の事情で病院に入所することになる方の、通所施設でのお別れ会前日の悲しい叫び声。お別れ会後の涙は、この方と関わったことのない私でさえも辛く感じました。決して悪い場所というわけではない病院ですが日々過ごす場所としては福祉と医療の差は大きく、福祉の人材を増やさなければいけないと感じます。周囲の状況で当事者の思いとは裏腹の状況になる現状が恐ろしいです。

また、家族と支援者の話し合いの白熱具合

は驚きました。事業所側の意見が一致しない段階で家族を巻き込んでいいのかと疑問も感じました。エゼル福祉会でも利用者さんに癌が発覚したことがありました。癌だから病院へお願いしよう、グループホームでは関わり切れないから退所してもらおうではなく何ができるかな、今からどんなふうにしていかうかと話し合いました。不十分な支援になってしまったと思いますが手探りでも利用者との関わりをやめずに進めていくたこのエゼル福祉会が好きです。

還暦を迎える利用者さんは今後増えていくでしょう。暮らしの場を提供していくことはその人の人生を抱えていくことだと思います。その責任の重さが怖いです。それでも

家族だけに任せていいものではありません。病気や障害でその人らしさを阻害されることのないその人らしい生き方で過ごして欲しいです。少しでもその手伝いができたらと思います。そのための人員確保や定着を考えていけたらと思います。

通所部 V.O.L.O 宮崎 結

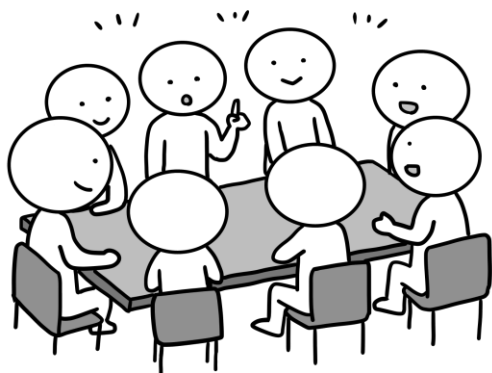
今回の映画では、様々な方の死を目の当たりにさせられました。ご家族の死、ご本人の死。そして亡くなられた方の周りにいる様々な関係者の表情や感情。いざ自分だったらどうなるのかと考えてみた時、とても複雑な思いになりました。

お母様が体調を悪くされ自宅で介護でき

なくなつてグループホームや一人暮らしなどの「箱」が見つからない時、ご家族ご本人はそれを望んでいなくても会議の中で入所一択になっていくのか。施設側は「夜間に吸引できるスタッフがいない。いたとしても、一人で夜間支援をしていくことに不安がある」という一方で、ご家族の「希望が見えない」という言葉がとても胸に突き刺さりしました。

自分のこれまでの支援を振り返り、「希望の見える支援」ができていたかと改めて考えるきっかけになりました。現実を見据えながらも、今この状態だから難しくできないではなく、どうしたら可能にすることができのかを前提として考えていきます。このこと

を念頭に置いて希望の見える支援にしっかりと臨みたいと思います。誰にでも必ず訪れる「死」を悲観的に捉えるのではなく、どう生きていきたいかをなかまと一緒に私も考えていきたいと思いました。



《活動状況》

7月

- 1日 名古屋生活支援事業者連絡会（渥美）
- 2日 社協 社会人としてのマナー研修
（西川・篠田）
- 6日 音楽サロン開催
（ギタリスト 湯田 大道）
- 8日 連絡調整会議
- 13日 全国障害児者の暮らしの場を考える会総会
（榊原・木村・馬渕・北出）
- 17.31日 W I L L実践指導
- 17.21日 動作法研修
愛知淑徳大学 二宮先生
- 18日 暮らしの場交流会（木村）
- 19日 名古屋生活支援事業者連絡会総会（渥美）
- 20日 エゼル福祉会全職員研修
「障害をもつ人の意思決定支援とは」
西宮市社会福祉協議会 副理事長 清水明彦氏
【公開講座】映画「普通に死ぬ」上映
- 22日 椋山女学園大学訪問（馬渕・小林）
- 23日 暮らしの場交流会（久野）
- 29日 会報発送



8月

- 2日 会報会議
- 3日 音楽サロン開催
（ヴァイオリン&ピアノ 青錦 & 木森菜見子）
- 8日 連絡調整会議
- 9日 名障連 虐待防止 身体拘束適正化研修
（溝口）
- 10～14日 W I L L・VOLO 夏季休暇
- 15日 処遇改善委員会
- 18日 動作法一日訓練会（渥美・岩下）
- 21.28日 動作法研修
愛知淑徳大学 二宮先生
- 25日 障害者福祉就職フェア 名古屋市公会堂
（名古屋生活支援事業者連絡会主催・
名古屋市後援）
（渥美・久野）
- 27日 社協 普通救命研修（有満）
- 30日 社協 発達障害研修（岩下）

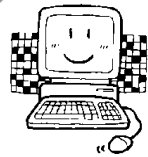


事務局コーナー



「ご協力ありがとうございました」

7月～8月（敬称略・順不同）



★ ご寄付いただいた方々

(NPO 法人コンビニの会)

※1 万円以上お振込みの方

藤森正子 近藤和実・弘治

鈴木容子 蜂須賀知子

山上小枝子 黒崎とし子

★ 物品寄付をいただいた方々

(コンビニハウス)

塩澤しのか 高田真由美

石原まち 我妻勇男 榊原芳典

(WILL)

宮田まどか

(VOLO)

高嶋一臣 石原優樹 浅井宏紀

久保昂太郎 小出朱里

早川佳乃

★ 活動にご協力いただいた方々

(コンビニハウス)

石原正寅 辻本道子 東原光江

石原まち 鈴木千春 寺西 剛

田村淳仁 林 京香 桐澤 潮

後藤 楓 鈴木悠太 小林愛恵

山本 武 渡部陽妃 白木佑叡

松井暖実 梶田里奈 北出麻衣

森奈留美 杉浦小柳 重松歩月

佐藤晴紀 我妻勇男

井戸田紗優 玉那覇詠洸 青島優津樹

酒井まみ子 長谷川美緒 榊原つぐみ

★ 会報発送ボランティア

半田素子 佐藤美紀子

丹羽正子 藤田ますえ

吉田嘉子 渡辺世津子 山田喜代子



コンビニハウス クリスマス会のお知らせ

毎年恒例のクリスマス会を下記の通り開催いたします。
皆様からのお申し込みをお待ちしています。

日 時 2024 年 12 月 25 日（水）13:20 開演予定
会 場 北区役所 講堂（名古屋市北区清水四丁目 17 番 1 号）
地下鉄黒川駅より徒歩 5 分
定 員 80 名（定員になり次第、締め切ります）
参加費 1,000 円（チケット代）

プログラム：バンド演奏・お楽しみ抽選会 他
参加申し込みは下記までお願いします。

連絡先：電話／FAX 052-505-6082

※感染状況で急遽中止することもあります。





地域サロン うたさと 8月



ヴァイオリニスト 青 錦さん / ピアニスト 木森 菜見子さん



【 銀行口座 】

三菱UFJ銀行 小田井支店 店番 238 (普) 口座番号 1440108

特定非営利活動法人 コンビニの会

【 郵便振替口座 】 番号 00800-2-35190 コンビニの会

ご意見・ご質問・お問い合わせは下記までお寄せください。

障害のある人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人

〒452-0807 名古屋市西区歌里町 147 番地

コンビニハウス Tel (052) 502-7731

Fax (052) 505-6082

コンビニの会

理事 宮川 優子

U R L <https://ezeru.or.jp/>

E-mail convini@ezeru.or.jp

